

溶存酸素濃度等連続測定調査(中間報告)

環境保全研究所

1) 目的

湖内に溶存酸素 (DO) 濃度および水温の連続測定器を設置して貧酸素水塊の状況を把握し、貧酸素水塊の発生・解消メカニズムの解明、貧酸素対策の検討および底層溶存酸素量の環境基準類型指定のための基礎資料とする。

2) 連続測定調査

湖内の観測地点の 5 地点 (A、B、C、D、E) および湖心に固定された浮標に、測定器をロープで所定の深度位置に係留し、DO と水温の連続測定を行った (測定間隔： 10 分) (図1)。

調査期間： 5 月～12 月



図1 湖内の観測地点

各地点の測定水深は以下のとおりとした。

表1 観測地点の水深と測定水深

地点	現地水深(m)	測定水深(m)				
		0.5	2.0			
A	2.79	0.5	2.0			
B	4.73	0.5	—	3.0	4.0	
C	2.58	0.5	2.0			
D	5.98	0.5	—	3.5	—	5.0
E	4.56	0.5	—	3.0	4.0	

現地水深： 令和元年 5 月 31 日測定

3) 調査結果

DO をモニタリングした結果をA地点からE地点まで下図に示した。



